

北京・ヴェローナ訪問記

最近、北京とヴェローナの学会を掛け持ち参加したので、そのときのエピソードを紹介したい。前者は北京大学とシカゴ大学のコラボの一環として企画された比較的小規模な研究会であり、コロナ禍を経て久しぶりの現地開催となったということで招待された。今年、中国の学会は、開催形式にかかわらず相当な頻度で延期または中止となっていること（理由は定かでないが、なんらかの政治的な動きらしい）に加え、米中関係の悪化もあり、私自身はドタキャンになるのではと秘かに心配していたが、欧米や東アジアの肝胆脾外科領域の著名人を集め、無事開催された。議論は大変盛り上がり有意義だったが、一つ驚いたのはコロナ陽性だというアメリカ人教授がマスク着用とはいえ堂々とプレゼンし、まったく遠慮することなく質問しまくっていたことだった。司会者がコロナ陽性と公表したにもかかわらず、参加者で私以外に1人くらいしかマスクを着けようとしなかったのもさらに驚きだった。夕食会は釣魚台国賓館というかつての迎賓館で行われ、非常に印象深いものだったが、さすがにその教授は欠席であった。

ヴェローナでは、以前からほぼ毎年参加している国際外科消化器科腫瘍科学会議（IASGO）が開催された。ヴェローナといえば、『ロミオとジュリエット』の舞台である。到着早々、『地球の歩き方』を手には「ジュリエットの家」なる建物を訪ねてみた。なんのことはない普通のイタリア住居で、映画に出てきそうなバルコニーがついているだけである。ネットで予約したカップルたちがバルコニーにあがって記念写真を撮っていた。中庭にジュリエットの銅像が立っていて、その右胸に触れると恋が成就する（？）らしく、黒山の人だかりでとても近くに寄れない雰囲気だった。早々に立ち去り、市内をぐるっと歩いてみたが、狭い範囲に見どころが集約されていて半日でほぼ回ることができた。そして、最大のお楽しみは野外オペラである。到着日がちょうど野外オペラ音楽祭の最終日、演目は『La Traviata』（ヴェルディ作曲）だったので、日程が確定した瞬間にネットで予約した。ローマのコロッセオを思わせる野外劇場での演奏は本当に素晴らしかった。舞台が大きいせい、装置は大きいが、演出も派手（なぜか馬が出てきてビックリ）で視覚的にも楽しめた。これだけでもヴェローナに行った価値があったというべきであろう。学会はその劇場の真ん前の伝統的な建造物で開催され、雰囲気もよかった。もちろん発表内容やdiscussionも大変有意義であった。

そういえば北京からヴェローナへの移動はChina Airlineでミラノ・マルペンサ空港に行き、ミラノ中央駅を経て列車でヴェローナ入りしたのだが、機中フライトマップをみていると、堂々とシベリアのど真ん中を通過、モスクワの北をかすめ、パルト三国の上空を経由していた。さすがにウクライナ上空ではなかったが、久しぶりにロシア上空を飛んだこと、おそらく今後その機会はないと思われるということで変に感慨深かった。

(長谷川 潔)

顧問 森岡恭彦 武藤徹一郎 今村正之 山崎洋次 幕内雅敏
名川弘一 亀岡信悟 國土典宏 幸田圭史
編集 佐野 武 長谷川 潔 船橋公彦

定価 3,080 円 (本体 2,800 円 + 税 10%)	臨床雑誌 外科 第85巻 第13号 (12月号)	2023年12月1日発行 (1080号)
	編集兼発行者 東京都文京区本郷三丁目42番6号	小 立 健 太
	印刷所 東京都千代田区飯田橋二丁目15番5号	日経印刷株式会社
発行所 株式会社 南江堂	〒113-8410 東京都文京区本郷三丁目42-6 (営業) TEL 03-3811-7239 : 振替口座 00120-1-149 番	
	(編集) TEL 03-3811-7619 FAX 03-3811-8660 https://www.nankodo.co.jp/	

・本誌に掲載する著作物の複製権、翻訳・翻案権、上映権、譲渡権、公衆送信権（送信可能化権を含む）、貸与権、二次的著作物の利用に関する原作者の権利は、株式会社南江堂が保有します。

・JCOPY <出版者著作権管理機構 委託出版物>

本誌の無断複製は著作権法上での例外を除き禁じられています。複製される場合は、そのつど事前に、出版者著作権管理機構（電話 03-5244-5088, FAX 03-5244-5089, e-mail: info@jcopy.or.jp）の許諾を得てください。

広告申込所: 〒113-0033 東京都文京区本郷5丁目24番6号本郷大原ビル6階 文京メディカル TEL 03-3817-8036